

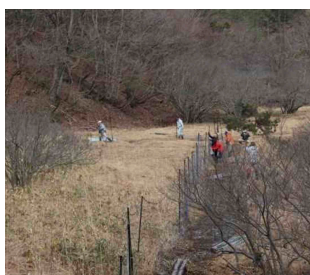
Yamakado News Letter



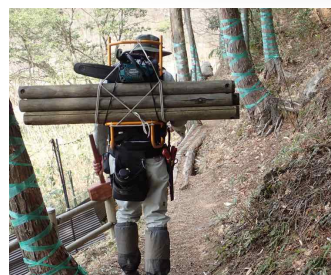
ネット、波板の設置を終えた湿原 3月20日



重い資材を下から運搬 3月2日



北部湿原約200mのネットを設置 Photo 藤本H 3月16日



階段横木用の資材を運搬 3月27日



破損した階段を修繕 3月27日

防獣対策やコース整備を進めつつ、新緑の春を待つ

雪による破損を避けるため、毎年防獣ネットの解体と再設置を行います。この冬は記録的に雪が少なく、早くからシカやイノシシが湿原内に入って採餌を始めたので、再設置を急ぎました。しかし、その範囲は北部、中央、南部の3つの湿原保護区の外周を合わせると約680mになります。また今年から中央湿原はAFネットという頑丈

なネットをフルで設置するため、その資材を桒舎から上げる作業もあります。作業に取り掛かったのは2月23日からで、一区切りついたのが3月20日。その間、会員やレイカディア大のボランティアの方々など、延べ34人が作業に関わりました。

また、4月14日の「ユキバタツバキ」現地交流会に間に合わせるため、コースの修繕や解説看板のリニューアルも急ピッチで進めています。



新たに作られたアルミ製解説板



作業に出る時は部材も運搬 3/24

保全活動のバトンリレー

昨年は滋賀県立大でフィールドワーク実習の募集をかけたところ、学生1名が山門水源の森を選び、我々と一緒に保全作業を行いました。

また、長浜市では2015年より地域おこし協力隊、ながはま森林マッチングセンターでは昨年からの就労実践の取り組みが始まりました。その関係で、昨年2名の若者が山に関わる作業の研修や実践を目的にこの森に来ました。その内の1名は引き継ぐ会会員にもなりました。

湿原の東側斜面ではササユリの株が増えつつあります。そこで一層の生育環境改善のために冬場に上層樹木の間伐を行いました。こうした作業でも協力隊の若い力が大いに活躍しました。協力隊は市内色々な場所で活動していますが、ここで

取得した技術を他地域でも応用し、また他地域で取得した技術をこの森で応用するといった、技術交流のようなことも起こりました。

間伐作業はチェーンソー操作やロープワークなど作業効率の面や安全面で、技術や体力に一定のレベルが求められます。保全作業に関心がある人なら誰でもできる、というものではありません。一方で、この作業の目的はササユリの生育環境の改善ですから、単に林業



会員と共に糞粒調査をする県大生 11/17



就労実践にてロープワークを実践 9/23



新しい道具を間伐作業で試す協力隊 2/11



伐倒木を枝払いする協力隊 2/11



ロープウインチを練習する協力隊 3/24



著しくチェーンソー技術が向上した会員 3/24

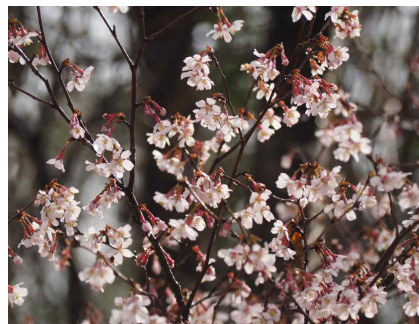
分野に留まらず、ササユリ保全の意味や、その背景の生物多様性などにも関心を持ってもらうことが望まれます。実際に作業に参加してくれる若者たちは、そうしたことに関心を持って作業をしてくれます。

こうした取り組みを続けることで、山門水源の森を保全できる人材が少しでも増えてくれれば、と思いつつ中年世代も頑張っています。

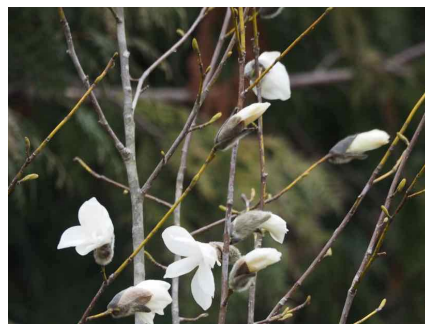
今月の森の様子



キタヤマオウレンとホソヒラタアブ 3/9



キンキマメザクラ満開 3/24



タムシバ開花 3/30